

「やりがい」を感じることでできる授業

単元名

もうすぐ進級・卒業

日時 平成24年 2月17日(金) 2校時

対象 高等部重複障害学級② 指導形態 生活単元学習

場所 高等部1・3年7組教室 指導者 西, 寺地, 末満

単元における生徒の実態

本グループは、重複障害学級②に所属する生徒たちで構成された4人の学習集団である。重複障害学級②は、大きな集団より小集団や個別的な学習を通して、様々な課題を解決していく学習集団であり、全ての授業において、実態に応じた個別的あるいは小集団での学習活動を設定し、日々取り組んできている。

本グループの生徒たちは、日常生活の様々な場面で周りからの支援を受けながら生活している。その中で、手伝ってもらうまで自分から取り組もうとする姿が見られない等、常に受け身な姿勢で過ごしていることが多い。例えば制作場面においても、教師と一緒に手を添えて取り組むことが多く、自発的、主体的に活動することにおいては課題がある。それは、一人一人の生徒が十分に見通しがもてていない、活動が魅力的でない、活動そのものが分かりにくい、生徒がどこまでできるのか教師の見立ての甘さ等の背景が考えられる。

帰りの会で一日の反省を発表する場面では、言葉で表現したり、教師の言葉の模倣で表現したり、教師に代弁してもらったり、身振りや指差しで表現したりとコミュニケーションの手段も実態が様々である。これまで「夏の生活を知ろう」や「秋の生活を知ろう」や「冬の生活を知ろう」等の単元を通して、四季を感じられるよう、様々な学習活動に取り組んできた。その中で、生徒が自分でできる場面や主体的に活動できる場面が増えてきた。これは、教師が生徒一人一人への支援を明確にしたり、好きな材料や道具を選択する場面を設定したりして、実態把握が深まったからだと考える。

単元(題材)の意義・価値

本研究では、キャリア教育の視点を生かして「今も卒業後も『やりがい』を感じながら生きていくために」の学部研究主題の下で実践に取り組んでいる。重複障害学級の生徒に関してキャリア教育の視点をどのように生かすかは大きな研究課題だと捉えている。文部科学省は学校教育に求められている課題として「生きる力」の育成を挙げている。さらに、社会人・職業人として自立した社会の形成者の育成の観点からいくつかの課題も示している。その中に、「学校の学習と社会とを関連付けた教育」「生涯にわたって学び続ける意欲」「自然体験、社会体験等の充実」「自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行う意思決定能力」等がある。これらのことは、重複障害学級の生徒についても必要なことであると考えられる。

「進級」や「卒業」は、これまでの学校生活を振り返り、生活の流れや学校と社会とのつながりについて学習できる機会となる。この単元では、カレンダー等で進級・卒業までの見通しをもつことができるようにしたり、お楽しみ会の準備やレクリエーションに参加したり、楽しかった行事の写真やVTRを視聴し思い出を振り返ったりすることもできる。それは、生活の流れを様々な形で感じることにつながり、また3月で友達と別れることや4月から社会(福祉施設や家庭等)での生活が始まることに気付くことにもつながると考

える。さらに学級製作やアルバム整理等の活動を設定することで、材料や方法等を自分で選択・決定する場面を意図的に設け、一人一人の生徒が自分のできることを最大限に生かし、自発的な活動の幅を広げることにもつながるのではないかと考える。これらのことは、本研究で示す五つの能力領域にある「学びの力」の学校生活習慣の基礎や「コミュニケーション」の意思表示・伝達、「意思・選択・決定」選択決定に該当する。

ねらい

そこで本単元では、好きなものややりたいことを選択することで、自分で考えながら活動できるようにすることをねらいとする。また、楽しかった学校生活を振り返り、卒業や進級への見通しをもつことができるようにしていきたい。

指導観

本単元の一次では、カレンダー等の作成を通して単元全体の学習活動をイメージできるようにし、さらに、進級や卒業に対しても見通しがもてるようにしたい。二次では、卒業文集作りやお楽しみ会等の友達との体験的な活動を通して、楽しい思い出作りができるようにしたい。三次では、アルバム整理や行事等のVTR視聴、楽しかった思い出の発表等の活動を通して、1年間を振り返ることができるようにしたい。

その際、言葉での説明に加えて、イラストや写真等具体物を提示して生徒に分かりやすく簡潔な説明に心掛けたい。また、毎時間、進級・卒業に関する話題を繰り返し語り掛けることで、単元全体を通して、進級・卒業への関心を高めるようにしたい。さらに、一つの授業の中で、一人一人のやりがい場面を設定できるように教師の共通理解を深めながら計画的に実施したい。特に制作活動等において、一人一人の生徒の実態に応じた支援方法を検討、確認することで、生徒の主体的な活動を引き出し、生徒が主体的に取り組むことができる場面をやりがい場面として設定したい。このようなことを繰り返すことで、単元全体を通して生徒一人一人のやりがい場を増やしていきたいと考える。

展望

これらの学習活動を通して、生徒自身が学校と社会とのつながりを感じることができ、進級・卒業に関するイメージをより明確にもつことができ、4月からの新しい生活への期待感を高めることができるようになるのではないかと考える。

指導目標

全体目標

目標	添付する項目
○ 好きなものややりたいことを選択することができるようにする。	I-1, 2, 3, 4
○ 卒業や進級への見通しをもち、楽しかった学校生活を振り返ることができるようにする。	II-1, 2 III-3
○ 自分のできることや好きなことを生かして、主体的に制作活動に参加することができるようにする。	V-1・2・3・4

個人目標

	目標	指導の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちを学習に向けて、積極的に発言しながら授業に参加することができるようにする。 ○ 2年生になったらやりたいこと等を考え、進級への期待感をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Aさんはどう思う？」の発問等で、発言を促したり、みんなの前で発表させたりする。返答できない時は、質問を具体的な表現に変えて伝え、生徒に考えさせるようにする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視線や表情、うなずき等で意思を表出し、自己選択しながら活動することができるようにする。 ○ 3年生とお別れすることを理解し、進級することを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の動きや反応から気持ちや考えを読み取り言葉に置き換え、模倣を促すようにする。 ・ 3年生とお別れすることを伝え、話をする際は、分かりやすいジェスチャーをし、注目させてから話すようにする。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視線や手を伸ばす等の動きで、自分で選択しながら活動することができるようにする。 ○ 卒業後の生活に見通しをもち、卒業までの学校生活を楽しく過ごすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の動きや反応から気持ちや考えを代弁し、言葉をしっかり聞くことができるようにする。 ・ 卒業後は、施設に通うことを話題にし、卒業後の生活に見通しがもてるようにする。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の中で、様々な役割に意欲的に取り組むことができるようにする。 ○ これまでの学校生活を振り返り、楽しかった思い出を身振りで周りの人に伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人への一方的なかかわりを友達や教師の手伝いに変え、「ちょうだい」「ありがとう」「どういたしまして」のやりとりを促すことで、落ち着いて活動できるようにする。 ・ 文字カードや写真カードや具体物を使い、思いや考えを表現できるようにする。

指導計画

全15時間（本時3／15）

次	主な学習活動	キャリア教育の視点	時間	資料・準備
一次	1 卒業，進級までの見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 3月のカレンダーを作る。 卒業式，終業式までの行事の確認。 日めくりカレンダーを作る。 		3 本時 3／3	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー 日付カード 行事イラスト 日めくりカレンダー
二次	2 卒業文集を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> プロフィール作り（3年） 先生や友達に依頼した原稿を回収する。（3年） 3年生へのメッセージ作り。（1，2年） 3 お別れ遠足，学年のお別れ会に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> レクリエーションや出し物の準備に取り組む。 遠足や会を楽しむ。 4 卒業式の練習に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> 礼や着席のタイミングや方法を学ぶ。 友達の様子に関心をもって参加する。 		9 ※お別れ遠足や卒業式当日は別カウント	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の卒業文集 メッセージカード プロフィール表
	5 1年間を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 作品やアルバムを整理する。 卒業記念品を作成する。（3年） 6 1年間の反省をする。 <ul style="list-style-type: none"> 写真等を見て，1年間を振り返る。 先生方に感謝の気持ちを伝える。 		3	<ul style="list-style-type: none"> 行事写真，VTR 卒業記念品材料

本時の学習

1 目標

(1)全体目標

自分で選択したり，決定したりすることで，意欲的に活動することができる。

(2)個人目標

	目標	指導の手立て
A	○ 教師の発問に返答し，意欲的に活動することができる。	・ 呼名して発問する等して，発言を促すような言葉掛けをする。
B	○ 絵本や読み手に注目し，関心をもって読み聞かせを聞くことができる。	・ 声に抑揚をつけたり，大きな動きをしながら読み聞かせをしたりして，注目を促す。
C	○ 2色のペンの中から好きな方を選んで伝えることができる。	・ ペンを片手に一本ずつ持たせ，好きな方を差し出すように言葉掛けをする。
D	○ 友達の手伝いをしたり，友達に材料を配ったりして，協力して活動することができる。	・ 活動に飽きてきたり，一方的なかかわりをしたりしている場合には，役割を交代する等して，集中が途切れないようにする。

2 指導に当たって

これまでの学習において、様々な製作活動には取り組んできている。例えば、毎月のカレンダー作成において、紙を折ったり、切ったり、破ったり、丸めたりして季節の飾りを製作してきた。本時においても、生徒一人一人が主体的に活動できる場面を引き出せるように教師の支援方法を明確にしていきたい。

そこで、「みつめる」の段階では、卒業に関する絵本の読み聞かせに取り組み、抑揚を付けたり動きを付けたりしながら学習内容への関心を高めていきたい。

次に、「よそうする」の段階では、言葉でのやり取りだけにとどまらず、イラストや具体物を提示したり、選択する数を少なく設定したり、言葉での表現、視線、表情、体の動き等に注目して、生徒が選択・決定できるようにしていきたい。

また、「やってみる」の段階では、教師が手を添えて行う活動においても、前半部分のみを手伝ってあとは、生徒が自分で取り組める場面を少しでも多く設定したり、やりたい気持ちを大切にしながら、想定していなかったことでも、生徒からの発信を受け止め「やりがい」を感じられるような役割を設定したい。さらに、生徒自身がペンの色を選んで自分で選択決定して主体的に活動できるようにかかわっていきたい。

そして最後の「ふりかえる」の段階では、出来上がった日めくりカレンダーを見ながら、楽しい行事等を発表する活動を設定し、生徒の気持ちを最大限に引き出せるようにしていきたい。



3 実際

※ 別紙参照

生徒の実態

	関心・意欲 態度面	知識 技能面	コミュニケ ーション面	「やりがい」に関する実態				産業現場等に おける実習	キャリア教育の 視点からの実態
				みつめる	よそうする	やってみる	ふりかえる		
A	・疲れやすく体調によって活動に取り掛かるまでの時間が掛かることもある。	・体調の良いときは、進んで発表したり、教師の発問に答えたりすることができる。	・自分が経験したことを2語程度で伝える等、言葉でのコミュニケーションがとれる。	・号令の係に意欲的に取り組むことができる。絵本の読み聞かせにも興味深く参加する姿が見られる。	・イラストや具体物を見て、身近な物の名前を答えることができる。	・目の前でやってみせると、手順を理解し、集中して取り組むことができる。	・教師が具体例を提示すると、楽しかったことを選択して、印象に残ったことを発表することができる。	・実習中は終日担任が付き添った。周りの利用者と自分からかわって楽しむ姿も見られた。	・次の活動への切り替えなどがスムーズにできるようになることが課題である。
B	・テレビのCMやキャラクターの話題を通して気持ちを高め、様々な活動に教師と一緒に取り組むことができる。	・帰りの会では、教師の言葉の模倣をしながら、反省を発表することができる。	・相手によって異なるフレージングでのやりとりを楽しむ姿が見られる。	・絵本の読み聞かせでは、声の変化に注目を向けたり、話し終わった後に関連する言葉と話したりして楽しむ姿が見られる。	・活動に必要な材料や道具を教師の説明と実物に触れることができる。	・欲しいものや好きなものをいくつかの中から取り、選ぶことができる。	・教師が言葉の最初の部分だけ言うと、それをきっかけに自分で反省を発表することができる。	・施設の全ての日課に沿って行動することはできなかつたが、朝礼や清掃等、分かる活動には参加する様子も見られた。	・好きなことや、できることを一つでも増やし、興味・関心の幅を広げることが課題である。
C	・手を添えて促されないと自分から行動起こさないことが多いが、言葉掛けや指差し等の促しで自発的に行動できる場面も増えてつつある。	・視線を向けたり、手を伸ばしたりして好きなものを選択することができる。	・自発語はないが、簡単な指示を理解し、行動できることも増えてきた。	・教師の説明に静かに耳を傾け、聞くことができる。	・活動に必要な材料や道具を教師の説明と実物に触れることができる。	・本人の手に片方一つずつ持たせると、好きな方を教師に手渡し、選ぶことができる。	・「○○は楽しかった？」等の発問に、表情や勢いよくタッチをすることでYes/Noを表現することができる。	・指示待ちな面があるために、促されるまで同じ姿勢でじっと座っていることが多いが、食事場面では、視線で食べたいものを選択する場面も見られた。	・自分から行動できる場面を増やすことが課題ある。
D	・やりたい気持ちが強くなると、順番を待たずに行動してしまうこともあるが、いろいろなことに興味をもち、意欲的に取り組もうとする。	・活動に見通しがあるとき、自分一人ですら意欲的に取り組むことができる。	・身振りサインや指差し等でやりとりをすることができる。	・号令の係に意欲的に取り組む姿が見られる。	・活動に必要な道具を実物の中から選択することができる。	・活動に見通しがあるとき、意欲的に自分ですら取り組むことができる。自分より先のことよりも先に友達の世話をしたがることもある。	・活動の流れ表を指差して、印象に残った活動を伝えることができる。友だちの発表の時に下を向いている等、関心を示さないことが多い。	・支援員の方が積極的に身振りサインを活用してくれたことでやりとりを楽しむ姿も見られた。作業ではいくつかの内容を設定することでの持続した取組ができた。	・指示を聞かずに自分勝手に取り組んでしまったり、今やりたい気持ちを抑えきれなかったりすることがある。我慢することが課題である。

過程	主な学習活動	指導上の留意点及びやりがいポイント			
		生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D
みつめる	1 始めのあいさつをする。	全：必要に応じてあいさつを促し、生徒の号令で授業のあいさつに応じる。			
	2 読み聞かせを聞く。 『みんなともだち』	T2, T3：正しい姿勢を促す。あいさつをする生徒への注目を促す。生徒と一緒に元気よくあいさつをする。			
	3 活動と目当ての確認をする。 卒業・進級までの日めくりカレンダーを作ろう！	登場人物の名前を答えることができる。	絵本や読み手に注目し、関心をもって聞くことができる。	T2：肩を叩いたり、指差しをしたりして、注目を促す。	
よそひく	4 日めくりカレンダーの作り方を確認する。 ・ 日数を確認する。 ・ 手順を確認する。 ① 日付を書く。 ② 日付を貼る。	T3：難しい時には、ヒントを T1:声に抑揚をつけたり、大きな与えて答えられるようにする。動きをしたりして、読み聞かせをする。			
		T1：本時の活動を説明し、目標と活動の確認ができるようにする。			
		T2, T3：生徒と一緒に、大きな声で目当てを読む。			
ゆつめる	5 日めくりカレンダーを作る。	T1：2月と3月の大きなカレンダーを提示し、今日から卒業式・終業式までの日数を全員で数えて確認する。			
		1から順番に日数を数えることができる。	T2, T3：T1とA児に合わせて大きな声で日数を数える。		
		T1：数える際に、少し間を空けて、生徒が数唱できるのを待つ。			
ゆつめる	5 日めくりカレンダーを作る。	T1：手順カードを提示したり、実演をしたりしながら、手順の確認を行う。			
		必要な道具を準備して配ることができる。			
		T1：道具をいくつか提示し、必要なものを選択できるようにする。			
ゆつめる	5 日めくりカレンダーを作る。	T3：進級までの日めくりカレンダーを作る。		T1, T2：卒業までの日めくりカレンダーを作る。	
		全：生徒の実態に応じて、一緒にペンを持って日付を書いたり、生徒に書かせたりする。			
		T3：なぞり書きで数字を書けるようにする。	T3：生徒と一緒にペンを持って数字を書く。	ペンの色を自分で選んで製作できる。	友達と協力しながら製作できる。
		T2：教師が選んだ2種類のペン T1：日めくりカレンダーを貼る作業を持たせ、好きな方を教師に業で、両面テープをはがす作業と渡して選択できるようにする。貼る作業を友達と分担する。			

 初め 	5 卒業・進級までの行事を確認する。	T3：楽しいな行事を確認する。T2：楽しいな行事を確認する。	T1：楽しいな行事を確認する。
		T2, T3：発表者への注目を促す。	T1：卒業までの日めくりカレンダーをめくりながら、楽しいな行事を発表させる。
		T3：進級までの日めくりカレンダーをめくりながら、楽しいな行事を発表させる。	T1, T2：発表者への注目を促す。
	6 おわりのあいさつをする。	全：必要に応じてあいさつを促し、生徒の号令で授業のあいさつをする。	
		T2, T3：正しい姿勢を促す。あいさつをする生徒への注目を促す。生徒と一緒に元気よくあいさつをする。	

4 評価

(1) 全体評価

自分で選択したり，決定したりすることで，意欲的に活動することができたか。

(2) 個人評価

	個人目標	評価
A	○ 教師の発問に返答し，意欲的に活動することができたか。	
B	○ 絵本や読み手に注目し，関心をもって読み聞かせを聞くことができたか。	
C	○ 2色のペンの中から好きな方を選んで伝えることができたか。	
D	○ 友達の手伝いをしたり，友達に材料を配ったりして，協力して活動することができたか。	

5 場の設定

